

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290700069		
法人名	医療法人社団 聡誠会		
事業所名	グループホーム ふくろう		
所在地	千葉県銚子市春日町1169		
自己評価作成日	平成29年3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成29年3月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所を医療法人が経営している事で、医療との連携を迅速に図ることができます。入居前の主治医とのつながりも尊重し、入居後の医療に不安を抱くような心配はありません。また、医療関係者との連絡が迅速に取れることから、将来的に看取り介護を希望された場合、心配なく今まで過ごした馴染みのあるホーム、ご自分のお部屋で最後の時まで過ごすことができます。職員一人ひとりが入居者様の気持ちに寄り添い、いっさい拘束のない安心して過ごせる居場所作りを大切にしています。月2回、外部の専門職の方による音楽療法を取り入れており、音楽を通して脳の活性化、心身の健康の維持・向上、若返りを図っています。月々の行事担当者がマンネリ化しがちな日々の生活に入居者様みな様で楽しめる行事を盛り込むなど、娯楽面の支援にも努めています。また、ホームでのみな様の様子をご家族に

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「グループホームふくろう」は平屋建てのバリアフリー環境が整った施設で、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。母体法人が医療法人であり、24時間連絡が可能となっており、緊急時・急変時の体制が整備されていると共に、看護資格を有する職員がおり、日々の健康管理・服薬管理・、状態の変化に応じた適切かつ迅速な対応が可能で、入居者や家族の安心に繋がっている。定期的に施設広報誌「ふくろう通信」や入居者一人ひとりの毎日の生活状況を綴った「一日日記」を送付しており、家族との信頼関係を深め、家族から好評を得ている。その他にも、音楽療法を取り入れる等、脳の活性化や心身の健康の維持・向上に努めており、入居者の生活活性化を図っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や申し送り等で理念を振り返る場を設けたり掲示し、周知徹底を図っている。職員は利用者のその人らしさを大切に、穏やかに過ごせるように努力している。	「その人らしい穏やかな生活」と言う施設理念を掲げており、事業所内に掲示している。入職時の研修や会議・申し送り等を活用し、職員への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の敬老会や、近隣施設とイベントがある時など行き来していたり、当ホームでイベントがある時は町内会の方々にも声をかけ、交流を図る機会を設けている。また、散歩時には行き交う近隣の方々や挨拶や会話を通じて馴染みの関係が保てるよう心掛けている。	日頃から挨拶や声掛けを行うと共に、地域行事への参加等を通じて、地域との交流を図っている。また、地域の学生の職場体験の受け入れを行う等、世代間交流及び地域貢献にも取り組んでいる。その他にも、他施設との交流行事も行っており、入居者の生活活性化にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方々を少しでも理解していただけるように、毎年市内中学校の職場体験を受け入れている。またボランティアや見学者も積極的に受け入れている。認知症ケアに関する相談にも対応している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告や行事内容、職員の研修状況などを報告し、推進委員との意見交換、質疑応答を通して、今後のサービスに反映できるようにしている。他の施設や地域の情報等も得て、実際の取り組みに活かせるよう努めている。	運営推進会議を年4回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・地域保健推進委員・地域住民・入居者・家族等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域実務者会議や認知症ケア検討会、ケアマネの勉強会等を通じて情報交換をし、連携を図っている。地域包括支援センターを主体に運営に関することも報告、相談をし、協力体制を築いている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を随時行い、連携を図っている。定期的に地域実務者会議・認知症ケア検討会・ケアマネジャー会議等に参加しており、市や同業者との意見・情報交換及び空き情報の共有等を行い、協力関係を構築している。	

【千葉県】グループホーム ふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修には積極的に参加し、職員全体でも勉強会を開くなど理解を深め、身体拘束排除のための実践的取り組みを行っている。夜間以外は玄関の施錠することではなく、ベッド柵の使用にも注意を払っている。	身体拘束排除における研修の参加・マニュアルの整備を通じて、全職員への理解促進を図っている。施設として、事例検討を含めた内部研修を行う等、施設サービスの適正化や意識向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者権利擁護の研修参加が必須であり、高齢者虐待法を意識し理解を図っている。高齢者虐待防止法を掲示し周知徹底するなど、虐待が行われることのない雰囲気作りを努めている。また、虐待があった場合も早期発見できるよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は「権利擁護事業」「成年後見人制度」の研修及び認知症介護実践者研修で、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学び理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約をする際は十分な説明を行い、ご家族の疑問や不安が解消されるよう、丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ふくろう通信」「一行日誌」などでホーム内の日々の様子をお知らせしたり、その中で職員の思いをお伝えすることで、ご家族が来訪時などに意見や要望を表出しやすいよう努めている。また、出された意見は職員間で必ず話し合い、今後のサービスに反省させている。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議等を通じて、意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望においては、会議・連絡ノート等を活用し、全職員で周知・検討の上、適切な改善を図っている。また、写真や入居者の様子を記した、「ふくろう通信」「一行日誌」を作成し、家族に送付する等、家族の理解促進及び信頼関係構築にも取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員が気軽に意見や要望を言える雰囲気を作り、聞くように心掛けている。申し送りやカンファレンスで意見交換した内容を代表者と共に競技し、活かせるように取り組んでいる。	定期的に会議を開催すると共に、申し送りや連絡帳等を活用し、職員からの意見・提案を確認している。また、職員の疲労やストレス等に配慮し、職員専用ルームが確保されており、職場環境の整備も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のスキルを配慮した給与体制を取り、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、介護職員処遇改善交付金を申請し、介護職員の収入増を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	活力ある施設を維持するため、全職員を対象に認知症介護実践者研修及びリーダー研修、その他外部研修に積極的に参加出来る体制を取っている。カンファレンスで研修報告を行い、情報の共有にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県地域密着小規模ケア推進協議会に加入し、勉強会に参加するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。また市内のケアマネ会へも積極的に参加し、交流を図り、ネットワーク作りに取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までと違った環境下での緊張と不安を取り除き信頼関係を築くために、職員は笑顔で、ゆったりと優しい雰囲気ですれすよう心掛けている。また、生活歴や経験等の情報を活かし、その人らしく暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族からできる限り多くの生活歴等の情報をいただき、ご家族の要望、不安等を理解し受け止めることで、ご家族の不安を軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者ご本人・ご家族との話し合いにより生活歴、ライフスタイルを知り、求めているサービスを把握した上で課題を明らかにし、わかりやすく説明し理解してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ご本人が自分で決めたり、希望を表現することを大切にしている。配膳や盛り付け、掃除等日常生活での手伝いを通じて、昔ながらの知恵を教えてもらったり、手助けしてもらえるとありがたいという職員の感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いを聞いたり、心情を察し、ご家族と職員の間でその情報を共有出来るように連絡を取り合い、ご本人の思いが実現できるよう、必要であればご家族に協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外出時間に柔軟性を持って対応し、ご家族をはじめご親戚やご友人が気軽に訪問でき、訪問時は居心地良く過ごせるような雰囲気づくりに努めている。外出・外泊はご家族に相談し、ご本人の希望が叶う方向で機会を作っていただくよう努めている。	友人・知人・家族等の訪問を随時受け付けていると共に、希望に応じて、手紙のやり取り等を支援しており、馴染みの関係継続に配慮している。また、地域行事への参加や他の施設との交流行事を通じて、同世代との馴染み関係の継続及び新たな馴染みの関係構築を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は全職員が情報共有し把握している。また利用者個々の性格等も把握し、必要時は職員が仲を取り持つなどし、利用者間で助け合いながら過ごせるような関係を築けるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはできるだけお見舞いに行き経過把握に努めている。また、契約終了後もご本人・ご家族にとって知りたい情報がある時には情報提供をし、必要時には相談にのれるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と接する中で思いを把握し、ご家族や職員からの情報も収集し、希望や意向に添えるように努めている。困難な場合はご本人の言葉や表情、仕草などから多角的に読み取り、職員で意見を出し合い、ご家族からも意見を聞き検討している。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、医療機関や他サービス事業所からの情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議・連絡ノート・申し送り等を活用して、全職員が常に新しい情報を共有できるよう努めている。	

【千葉県】グループホーム ふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴や生活習慣、生活環境、趣味、これまでのサービス利用の経過などを聴き、ご本人からも日常の会話の中でそれらを聞き取り把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりとかかわる中で日常状態を把握し、新たに知り得た情報があったり、変化がある時には申し送り時やカンファレンスで確実に職員間で情報共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの情報、職員が日々係わりを持つ中で気付いたご本人の希望する生活や課題をアセスメントし、カンファレンス等で話し合い、介護計画を作成している。その後ご家族に提示し意見をもらい、経過をモニタリングしている。	本人・家族の意向を基に会議で検討の上、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。職員が入居者と日常のかかわりの中で状態把握や意見・情報交換を行った記録等を介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分摂取量、排泄チェック、バイタルチェックや生活の様子、状態の変化などをご本人の言葉、行動、表情など通して個々の介護記録に記録し、職員間で共有している。介護計画の見直しの際は情報のひとつとして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じた柔軟な対応に努めている。通院の支援・床屋等への付き添いは必要に応じて行い、市等への提出書類も代行が許可されたものは引き受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に馴染みのあったお店やよく出かけていた場所などを聞き、入居後も可能であれば活用できるように支援している。また車椅子でも出かけられる飲食店やスーパーや、訪問してくれる床屋さんなどの情報収集をし、活動支援に活かしている。		

【千葉県】グループホーム ふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者またはご家族が希望している医療機関を受診している。受診時の状態や必要に応じてバイタルチェック表などの情報提示をしている。協力医とは24時間連絡が取れる態勢を取っている。歯科の訪問診療も依頼し行っている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて、職員が通院の付き添いを支援している。定期的に内科医の往診を実施しており、適切な医療支援に努めている。協力医療機関とは、24時間連絡が可能となっており、緊急時や急変時における協力体制を構築している。その他にも看護職員による健康管理や医療相談等も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護スタッフがおり、利用者の状態の変化や気付き、疑問を報告、相談しアドバイスを受け介護に当たっている。体調管理、リハビリなど看護師として介護スタッフに指導、フォローアップできる事は行い、必要時はかかりつけ医に相談し早めの対応が取れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には、ADLや経過を看護サマリーとして入院先に情報提供している。退院時は入院先の医療連携室と連絡を取り合い、入院中の経過報告をもとに退院後の生活について相談したり、アドバイスを受けるなど協働の関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、日常の健康管理や急変時の対応、医療機関との連携についてご家族に説明し、意向に添うよう努めている。入居期間が長くなり状態が変化してきた方には、その時点で改めてご家族の意向を確認するようにしている。看取りについての指針作成、ご家族の意向を尊重して同意書を作成するようにしている。	終末期・重度化における施設方針を明文化しており、契約時に説明の上、同意を得ている。必要時には、家族の意向を再確認しており、職員間で検討を重ねながら、できる限りの支援が行えるよう努めている。状況変化やニーズを介護計画に挙げる等、全職員がすべきことが共有できるよう工夫している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応方法を勉強会等で確認し合い、必要連絡先は常時電話の傍に掲示している。急変時の前触れとなる健康状態の把握についても、シグナルを読み取る事に努め予防対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練は年2回行っている。火災報知機、緊急通報装置、スプリンクラーは設置されており、定期点検はもちろん、これらを使用した設定での訓練も行っている。緊急時の職員連絡網を作成し、連絡方法などの話し合いを持っている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、年2回、消防避難訓練を実施している。今年度は、消防署立会いの下、夜間想定訓練・通報訓練等を実施している。運営推進会議を活用し、市や地域住民への協力の呼びかけを行う等、理解促進に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを傷つけないように、常に尊厳も守って接するように心掛けている。カンファレンスでは、声かけや話し方や接し方について話し合い、反省することがないか振り返っている。	「その人らしく」を理念に掲げており、理念を意識した支援に取り組むと共に、必要に応じて、研修や職員への指導を行っている。また、会議においてはプライバシー確保に向け、具体的な確認や改善について話し合っている。日中は玄関のカギは施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる場面を作るようにしている。利用者の能力により複数の中から選択してもらったり、自己決定を容易にする工夫をしている。利用者の話をささげる事なく受け止め、寄り添うケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、レクレーションへの参加など毎日のこともご本人の希望に合わせた支援を行っている。何をしてもまず声かけから始まり、一人ひとりの反応や希望を考慮し、その日その時のご本人の意向に添って過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりのおしゃれ(化粧など)、身だしなみ(好みの服装)などの生活習慣の情報をご本人・ご家族から聞き取り、継続して楽しむことができるよう支援している。理容、美容もご本人が望む馴染みのお店に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずは3食栄養のバランスを考慮し、配色サービス(食材)に依頼している。ご本人の好みや飲み込みの状態に合わせた固さのご飯を準備している。食事の準備・片付けは一人ひとりのできる能力を把握し、職員と一緒にやっている。食事は信頼関係の構築という意味も踏まえ、利用者と職員と一緒に食べている。	献立作成及び食材の配送を専門業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。定期的に外食・行事食・手作りおやつ等を実施しており、食の楽しみを提供している。また、入居者の希望や職員のアイデアを生かした食事提供を行っており、食を通じて利用者と職員の良い信頼関係構築にも繋がっている。	



【千葉県】グループホーム ふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通じた食事・水分摂取量を確認し記録している。一人ひとりに応じた量・大きさ・食べるペースや体調などを把握し声かけを行っている。水分はなるべく800ml異常は摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後の歯磨きを促している。能力に応じ見守りや介助の支援をし、義歯は夜間預かり消毒している。希望があれば歯科医の往診が受けられ、口腔清掃も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けることにより、排泄パターンを把握し、トイレ誘導をさり気なく促している。夜間はその人の能力に応じ、見守り、トイレ内介助、定時の誘導など、自立に向けた支援をしている。	排泄チェックリスト表等を活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、時間・仕草・状況に応じて、声掛け・トイレ誘導等で対応する等、適切な排泄を支援している。また、献立の工夫や運動を取り入れると共に、医師や看護師と相談を行いながら、適切な排便コントロールに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多いバランスの取れた食事を考慮し、食事摂取量と適切な水分量が確保されるように注意している。また体操やホール内歩行など、楽しみながら運動できるよう支援している。便秘傾向の方には適切な下剤使用を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、午後に行っている。入浴を拒まれる人には無理強いせず、タイミングを見て声かけするなど対応を工夫している。湯の温度や洗い方など個人の要望を聞きながら、入浴剤や季節に合わせた菖蒲や柚子なども利用し、入浴を楽しめるよう支援している。	入居者の希望や体調に応じて、回数等を調整し、適切な入浴機会の確保を行っている。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴も実施しており、入居者の清潔保持に努めている。暖房機器の設置や季節に合わせた菖蒲や柚子を利用する等、快適な入浴機会の提供に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や落ち着きのなさや緊張、疲労の程度に応じてひと休みするなど、心身を休める場を個々の生活パターンに応じて取り入れられるよう支援している。一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜間眠れない方には日中体を動かす機会を増やしてみるなど、リズム作りの支援を行っている。どうしても眠れない方には医師と相談し、必要時眠剤を服用するなどし、安眠へとつなげている。		

【千葉県】グループホーム ふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は必ず職員が行っている。個々の処方内容がファイルしており、すぐに目を通せるようにしている。薬の作用・副作用は看護師より説明があり、体調観察し状態変化に注意している。飲み間違い予防のため、ほぼ全ての薬は薬局に分包を依頼しており、名前、日付や内服時間など、袋に記載されたものを内服時にご本人と一緒に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、また生活歴から一人ひとりが楽しみごとや役割を見出せるように、場面作りの支援を行っている(掃除、お茶入れ、盛り付け、新聞を読む、など)。気分転換やストレス解消にドライブや散歩など、外の空気や季節を感じ、喜びにつなぐことができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月毎の行事担当者がその季節に合わせた、利用者の希望に合わせ、外食や花見、寺社参拝などに出かけられるよう計画している。その他にも個々の希望による外出や気分転換、ストレス解消を目的とした買い物、散歩、ドライブなど、その人の体調や天候なども考慮しながら外出できるよう支援している。	入居者の希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出を支援している。また、定期的に行事担当者が外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。外出については、天候・希望・身体状況・習慣・趣味を考慮する等、入居者一人ひとりに合わせた外出活動に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対しての思いは個人によって、その時の状況によって様々な形で表現されるので、その思いの違いを汲み取り支援している。希望する方は職員同行で買い物に出かけたり、小銭程度は個人で管理していただくなど見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたいと希望する時は、本人の願いに応じて電話をかけられるよう支援している。ご家族からの手紙が届けば、ご本人が読めない場合は代読するなどし、必ず届くよう支援している。ご家族宛に年賀状を送るため、ここの能力に応じた支援をしている。		

【千葉県】グループホーム ふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花を飾ったり装飾を行っている。利用者と共に季節に合わせた作品作りをし、その作品を飾るなど、季節を感じてもらえるようにしている。大きなホールの中でテレビを囲んだソファや、食事の場でもあるテーブル席など、好みの場所でテレビを見たり、音楽を聴いたり、おしゃべりができたりと、個々がゆっくり寛げるような空間作りに努めている。	施設は、平屋建てのバリアフリーで、十分な介助スペースを設けており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。共有スペースには、ソファ・テーブル等を設置し、自由にくつろげる環境整備がなされている。開放的な窓の向こうにウッドデッキが設置され、日向ぼっこやお茶飲み等が可能となっており、入居者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が大きなホールになっており、そこに食事をするテーブルが3台、ソファが3台あり、仲良いグループや余興の好みの合うもの同士など、その時の利用者の関係性や行動などに合わせてホール内の家具を移動するなどしている。一人静かに新聞を読むなどされる方には、職員が一人の空間を保てるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にお話しし、長年使い慣れた家具や好きな写真などを持ち込んでいただき、安心でき居心地良く暮らしていただけるよう工夫している。ご自分の部屋に愛着を持ってもらえるよう、個々の部屋の掃除などは職員と一緒に、その部屋の入居者にもお願いしている。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。ポータブルテレビやテレビを使用する事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。各居室には、鍵や収納が設置されており、個々のプライバシーに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置やテーブル、椅子の高さなど利用者が適切に使える状態になっているかを職員間で話し合っている。トイレや浴室には見やすい場所に案内を表示し、個々の居室にも本人の名前と写真を貼るなど、利用者がわかりやすいような環境作りに努めている。		